

## 42万人<sup>(※1)</sup>の受験データから日本人の英語スピーキング力の実態が判明 グローバルビジネスで通用するレベルはたった6%

TOEIC®L&R ではわからない、深刻なスピーキング力不足が浮き彫りに

スキルの可視化と向上を支援する“AI アセスメントカンパニー”の株式会社レアジョブ（以下、レアジョブ）法人向け事業子会社、株式会社プロゴス（以下、プロゴス社）は、2020年6月の提供開始から3周年を迎えた AI ビジネススピーキングテスト「PROGOS®」の受験データを活用し、日本人の英語スピーキング力に関する調査結果を発表いたします。

\*1：2020年6月以降の「PROGOS®」のべ受験者数



**PROGOS**  
for English Speaking

**42万件<sup>(※)</sup>の受験データを分析  
調査結果を発表**

(※) 2020年6月以降の「PROGOS®」のべ受験者数

日本人のスピーキング力  
最多は初級レベルの「A2 High」

グローバルビジネスで通用するレベル  
はほんのわずか

リスニング・リーディング力と  
スピーキング力には大きなギャップ

海外売上高が伸びている企業ほど  
スピーキングテストの利用が多い

アジア諸国のスピーキング力と  
比較しても日本は低い

### ■背景

2020年6月、レアジョブグループでは英語スピーキングテスト「PROGOS®」をリリースいたしました。同テストは AI による自動採点を中心に国内外の企業・大学で広く活用されており、のべ受験者数は42万人に上ります（2023年5月末時点）。ビジネスにおける実践的な英語スピーキング力の可視化ツールとして、企業の人材育成研修や採用活動、大学における試験など幅広く活用され、定着してまいりました。“日本で最も年間受験者数が多い英語スピーキングテスト”として認知も高まっている中、3年間で蓄積した大規模受験データを調査・分析し、日本人の英語スピーキング力の実態と課題を明らかにいたしました。

### ■結果 1. 日本人のスピーキング力 最多レベルは初級段階の「A2 High」

「PROGOS®」は、国際的な言語力指標である「CEFR（セファール）\*2」に準拠しています。対象期間における日本人受験者の結果（\*3）から、ビジネスパーソン（一部、大学生を含む）の英語スピーキング力は CEFR レベルで下記の分布となることが判明しました。

- ・最多レベルは初級段階の「A2 High」
- ・ビジネスで何らかの英語を使ううえで最低限必要とされるレベルは「B1」だが、「B1 ならびにそれ以上」のスピーキングレベルを持つ日本人受験者は「49.1%」であった
- ・グローバルビジネスで通用する英語レベルは「B2」以上だが、「B2 以上」のスピーキングレベルを持つ日本人受験者は約「6%」に留まる

以上の結果から、グローバルなビジネスで英語を使いこなせる日本人ビジネスパーソンは、ごく少数に限られており、少し英語が使えるレベルから、ビジネスに通用するレベルの間に大きなギャップがあることがわかります。

\*2：CEFR（Common European Framework of Reference for Languages／ヨーロッパ言語共通参照枠）の略。コミュニケーション能力別のレベルを示す。

\*3：「PROGOS®」受験者 42 万人のうち、日本人受験者 34 万人のデータから算出。日本人全体の英語スピーキング力を示す数値ではない。

	CEFR-J スピーキングレベル	割合	
	B2 High and above	0.2%	↑ ↑ グローバルビジネスで通用する レベルは「B2」以上
	B2	5.7%	
最多レベルを占めた 「A2 High」は 初級段階	B1 High	22.7%	↑ 仕事で英語を使うのに最低限 必要なレベルは「B1」
	B1	20.5%	
	<b>A2 High</b>	<b>30.6%</b>	
	A2	7.2%	
	A1 High	6.7%	
	A1	1.5%	
	Pre-A1	4.8%	

→仕事で英語を使う  
最低限のレベルに到達していない

## ■結果 2. リスニング・リーディング力とスピーキング力には大きなギャップがある

ビジネスで英語を使うにあたっては、英語 4 技能（「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」）を使いますが、特に商談や会議などで適切なコミュニケーションを取るために「話す」力が非常に重要になります。そこで、よく受験されている TOEIC®L&R と「PROGOS®」の両方を受けた人の受験データを活用し、技能間の比較分析も実施いたしました。

「PROGOS®」の受験者かつ TOEIC®L&R のスコアも保有する約 5 万人のデータを CEFR レベルに換算して比較したところ、リスニング・リーディング力とスピーキング力には大きな差があることがわかりました。分析結果によると、TOEIC®L&R のスコアからリスニング・リーディング力で「B1」レベル相当があるとされる対象者のうち、実際に同等レベルのスピーキング力を持っているのは 4 割、「B2」レベルにおいても 1 割強にとどまることが判明しました。この結果から、下記の考察が得られます。

- ・スピーキングの実力を把握するためには、スピーキングテストで測定する必要がある
- ＝TOEIC®L&R のスコアを換算するだけでは、スピーキングの実力を正確に把握できない
- ・ビジネスで重視されるスピーキング力が、リスニング・リーディング力と比べて大きく劣っている
- ＝リスニング・リーディング力とバランスがとれたスピーキング力を持っている人は非常に少ない

CEFR換算	リスニング・リーディング力 (TOEIC)	Pre-A1	A1	A1 High	A2	A2 High	B1	B1 High	B2	B2 High
C1	LR945-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	1.8%	1.7%	0.2%
B2	LR785-	0.2%	0.0%	0.1%	0.3%	4.6%	8.0%	13.0%	3.6%	0.1%
B1	LR550-	0.6%	0.3%	1.7%	3.2%	19.0%	11.6%	6.2%	0.6%	0.0%
A2	LR225-	2.1%	1.0%	4.0%	4.2%	8.5%	1.6%	0.3%	0.0%	0.0%
A1	LR120-	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
スピーキング力 (PROGOS)		Pre-A1	A1	A1 High	A2	A2 High	B1	B1 High	B2	B2 High

(N数=51,353)

### ■結果 3. 海外売上が伸びている企業ほどスピーキングテストの利用が多い

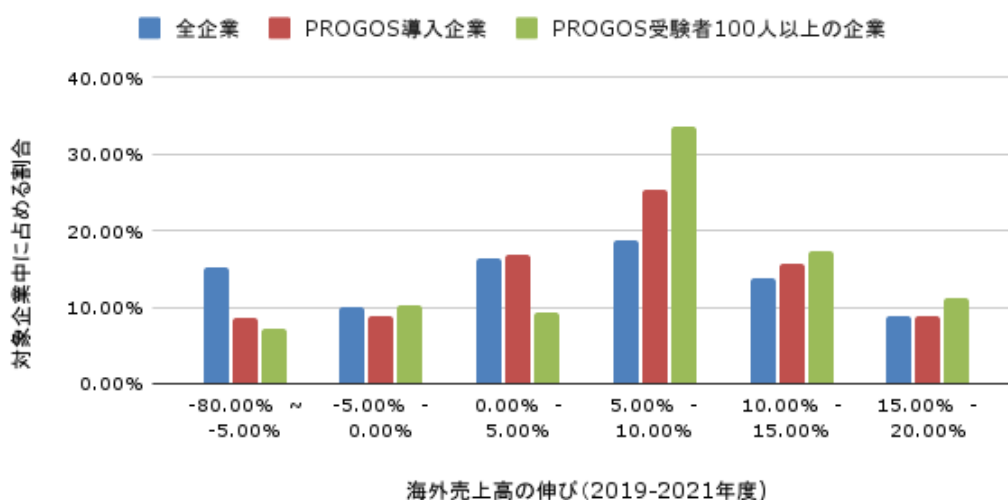
企業のグローバル化進展の指標としての海外売上高の伸びと、英語スピーキング力の関連性も調査しました。海外売上高を開示している約 1,200 社のデータをベースに、2019～ 2021 年度の海外売上高の年平均伸び率と、その中の 2020 年 6 月リリース～2023 年 5 月末までの「PROGOS®」利用企業を比較したところ、以下のことが判明しました。

- ・企業数では海外売上高の年平均伸び率は 5～10% が最多であったが、このレンジで「PROGOS®」を 100 受験以上大規模に導入している企業の比率は圧倒的に多い。また何らかの形で「PROGOS®」を導入している企業の割合も多い。
- ・海外売上高が 0～20% で伸びている企業では「PROGOS®」を導入している企業の割合が多い。

上記は、事業のグローバル化に伴って、英語による業務が増加し、的確な人材配置や語学力育成のために、英語スピーキング力を可視化したいという企業が増えることを示唆しています。コロナ収束に伴い、中長期経営計画の中で海外展開を加速化する企業が増える中、それを支える人材のスキル面の施策として、注目すべき傾向と言えます。

### 海外売上高の伸びと「PROGOS®」の導入

海外売上高を開示している企業(1,200社)



「PROGOS®」を導入しない企業の理由としては、TOEIC®L&Rを使っているから必要ない、あるいは英語を使うのは一部の人に限られるから、などが聞かれます。しかし、オンラインも含め海外との接点が増えた結果、社員のスピーキング力不足に直面し、「PROGOS®」の導入に踏み切る企業が増えています。

## ■結果 4. アジア諸国のスピーキング力と比較しても日本は低いという結果に

「PROGOS®」は、54 の国と地域で利用されています。そのうち 450 名以上の受験者がいる国・地域別のスピーキング力比較を行った結果、アジアのなかでは、日本とタイは最多レベルが「A2 High」で最も低いグループだったのに対し、カンボジア・フィリピン・インドの最多レベルは「B1 High」となりました。国全体のスピーキング力を表すものではありませんが、一定数の受験者の比較では国の間でのレベル差が明らかになりました。

## ■展望

現在、日本の人材育成を取り巻く環境は大きく変化しております。高度経済成長期時代の新卒一括採用、年功序列制度、終身雇用といった慣習は薄れつつあり、自律的キャリアの形成、スキルの可視化、リスキング、職種別採用やジョブ型雇用、ジョブポスティング制度などが普及し、人への投資をコストでなく資産ととらえる人的資本経営が推進されています。

こうした変化の中にあっては、英語スピーキング力は事業のグローバル化推進に欠かせないスキルであり、国際的な言語指標である CEFR によってそのレベルを可視化することは、データドリブンな人事施策を実行する上でも、より一層重要になると考えられます。

今後は「PROGOS®」の受験数増加に加え、そのデータをグローバルリーダー育成に必要となる他のスキルのデータと組み合わせ、人材採用・配置・育成の最適化へのデータドリブンな活用を推進していくとともに、独自の強みとなるアセスメントデータプラットフォームの構築につなげてまいります。

### 「PROGOS®」概要

テスト形式	オンラインテスト 自動音声・スクリーン表示に従い解答
試験時間	約 20 分
問題内容	インタビュー、音読、プレゼンテーション、グラフ・図を用いたプレゼンテーション、ロールプレイ
採点方法	AI による自動採点
評価	総合評価：CEFR-J* レベル 指標別評価：CEFR*が定義する 6 評価項目
測定範囲	Pre-A1 から B2 High & above (自動採点版)
結果通知	受験後、最速で 2～3 分 (自動採点版)
受験環境	マイク・スピーカー機能のあるパソコン／タブレット／スマートフォン OS：Windows (Windows8.1 以上を推奨) / Mac (MacOS X 10.14 以上を推奨) / ChromeOS 最新版 ブラウザ：Google Chrome ・ Mozilla Firefox ・ Microsoft Edge ・ Safari

## 【株式会社プロゴスについて】

所在地：東京都渋谷区神宮前 6-27-8 京セラ原宿ビル 2F

代表者：代表取締役社長 坪内 俊一

URL: <https://www.progos.co.jp/>

事業内容：グローバルリーダーの評価・育成

## 【株式会社レアジョブについて】

所在地：東京都渋谷区神宮前 6-27-8 京セラ原宿ビル 2F

代表者：代表取締役社長 中村 岳

URL: <https://www.rarejob.co.jp/>

事業内容：リスニング関連事業／子ども・子育て支援事業

上場取引所：東京証券取引所プライム市場

## 【レアジョブグループの事業展開について】

レアジョブグループは、AI アセスメントカンパニーとして、グループビジョン“Chances for everyone, everywhere.”に基づき「世界中の人々が、それぞれの能力を発揮し、活躍できる世の中の実現」を目指しています。オンライン英会話をはじめ、AI ビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS®」などアセスメントを軸とし、個人・法人・教育機関などを対象に事業を展開。また、英語だけでなくグローバルリーダーに必要な評価・育成・採用など人材関連サービスや、資格取得を支援するサービス、K12 領域における子ども子育て支援サービスも幅広く提供。今後も、国内のみならずグローバルな事業展開を推進してまいります。

## ■イメージムービー：レアジョブが描く少しだけ未来の風景

<https://youtu.be/6HWoKierAYs>

## 【サービス関連情報】

- ・累計無料登録ユーザー数：110 万人以上※
- ・累計導入法人企業数：4,000 社以上
- ・累計導入教育機関数：330 校以上

※ユーザー数は、当社グループの英語サービスすべてのユーザー数を記載

## 【提供サービス】

### ◆リスニングサービス

#### ーオンライン英会話サービス

- ・[オンライン英会話サービス「レアジョブ英会話」](#)
- ・[オンライン完結成果保証型英会話プログラム「スマートメソッド®コース」](#)

#### ーアセスメントサービス（英語力測定）

- ・[ビジネス英語スピーキングテスト「PROGOS®」](#)
- ・[英語スピーキング力診断アプリ「PROGOS®」](#)

#### ー法人向け人材育成関連サービス

- ・[グローバルビジネススキル習得プログラム「グローバルスキル Power トレーニング」](#)

# PROGOS

## for English Speaking



・法人向けグローバルリーダー育成研修サービス

—資格取得支援サービス

・法律系難関資格のオンライン学習サービス「資格スクエア」

◆子ども・子育て支援サービス

—オンライン英会話サービス

・子ども専門オンライン英会話サービス「リップルキッズパーク」

・学校／個人向けオンライン英会話サービス「エデュル」

—英語教室関連サービス

・子ども向け英語教室「グローバルフィールド」

—英語指導者派遣サービス

・ALT 人材派遣サービス

**【本お知らせに関するお問い合わせ】**

株式会社レアジョブ 広報 水口

メール：[press@rarejob.co.jp](mailto:press@rarejob.co.jp)